



墨東の学び

明けましておめでとうございます。4月には開校38周年を迎える母校の成立ちや歴史を本号でお届けします。

本校が、この地に開校した経緯は？

<本校開校以前の状況> 日本で最初の肢体不自由教育を行う公立学校としては、昭和7年(1932)に東京市立光明学校(現在の光明学園に発展)が港区麻布に開校しました。それから四半世紀を超える29年後の昭和34年(1959)に、都内で2番目となる肢体校として都立小平養護学校(現在の小平特別支援学校に発展)が多摩地域に開校しました。本校近隣では、昭和36年(1961)に江戸川養護学校(現在の鹿本学園に発展)が都内3番目の肢体校として、さらに、昭和45年(1970)に城北養護学校(現在の花畑学園に発展)が6番目に開校しました。

<この地域に暮らす子供たちの通学状況(開校前)> 現在、墨東特別支援学校の通学区域となっている地域では当時、江東区と墨田区の一部、中央区と千代田区に暮らす子供たちは江戸川区にある江戸川養護学校に、台東区、墨田区の一部地域に暮らす子供たちは足立区にある城北養護学校に、各校のスクールバスを利用して通っていました。

<保護者の願い> しかしながら、学校から遠い地域に暮らす子供たちは、片道2時間程かかっていたので、健康面や体力面で負担が大きいとして「この城東地区にも肢体不自由校がほしい」との願いが高まり、肢体不自由児を育てる保護者達が東京都に「**江東区の中に、肢体不自由養護学校の設置を**」との請願をするなど、熱心に「肢体校が必要です!」との声を各所に届けたのです。

<開校の計画化> そうした要望が実を結び、昭和55年東京都の長期計画(都計画)に学校建築が盛り込まれました。その後、昭和59年の都計画で具体化が進みだし、いよいよ昭和61年には「墨東地区養護学校(仮称)建築計画」に基づき、以前は大きな工場が並んでいた江東区猿江の小名木川沿いの「**製糖工場跡地**」に校舎建築が始まりました。

<ついに開校へ> 昭和62年(1986)4月1日に念願の開校となりました。同月18日に開校式、**6月20日に校舎落成式**を行いました。以来この日を開校記念日としています。このように多くの方たちの学校教育への思いと

支えで本校が開校したのです。

本校が歩んできた37年の歴史 <学校沿革>

昭和62年4月 星川勝初代校長と秋野勇初代教頭が着任し、「東京都立墨東養護学校」が開校。

<当時の学校形態> 肢体不自由養護学校(単種別)

本校/通学籍小・中・高3学部

訪問籍 つばさ在宅訪問学級(小・中)

※児童・生徒総数113名、スクールバス6台

同年4月18日に開校式、6月20日に校舎落成式を挙行
平成元年3月13日に校歌を制定して発表会開催

平成3年4月 国立がんセンター中央病院の入院児に対し、本校から訪問教育を開始

平成8年4月 同病院内に病院内学級を設置

平成10年4月 同病院内に**いるか分教室**を設置

高等部訪問教育開始(現:つばさ在宅訪問学級の高等部)

平成18年4月 前年度に開所の都立東部療育センター内に、施設内訪問学級を設置し、訪問教育を開始

平成19年4月 同センターに、**かもめ分教室**を設置し、常駐する教員による教育開始

平成20年4月 学校教育法の改正を受けて、都立養護学校は一斉に「**墨東特別支援学校**」校名を変更

平成29年4月 東京都特別支援教育推進計画に基づき、**肢体不自由と病弱の2つの教育部門の併置校に再編**

<再編後の学校形態> 肢・病併置型特別支援学校

S: 肢体不自由教育部門

○本校(通学)

○つばさ在宅訪問学級

○かもめ分教室(東部療育センター)

B: 病弱教育部門

○つばさ病院訪問学級

○いるか分教室(国立がん研究センター中央病院)

平成30年4月 全都立肢体不自由校を対象に、医療的ケア児専用通学車両の導入(2学期から運行開始)

<現況> 令和6年4月 児童・生徒総数194名

スクールバス16台、医ケア児専用通学車両12台

◆ 来たる令和9年(2027)には開校40周年を迎えます!

開校以来の愛すべきビンテージ校舎 good ポイント！

限られた敷地を有効活用するために、都立養護学校では**初の一部4階建校舎**となりました。また、**廊下の幅が広いこと**、**教室間に設けたトイレ**、**屋上設置のプール**も当時としては画期的でした。特にプールは、透明化したかまぼこ型の屋根と壁の一体部分が3段に重ねてスライド収納し、**上部と左・右両側が一体的に全開放する最新機構**を備えたものでした。

正門右脇に設置の**カリヨンの鐘**は、この近隣で遊ぶ子供たちに夕暮れの帰宅時刻を知らせる鐘があればとの地域の声に応じて、特別に設けられたそうです。塔の前には、**塔名板「おおぞら」**が掲げられています。初代の星川勝校長先生の命名だそうです。開校準備と初代教頭を務められた秋野勇教頭先生の揮毫だそうです。

カリヨンの塔の上には、**ブレーメンの音楽隊の風車**が回っています。校舎1階南棟のEV前にも「**ブレーメンの音楽隊**」の大壁画があります。

正門右側には、**学校名の表札レリーフ**が取り付けられています。開校当初は、星川校長先生が揮毫された校名「東京都立墨東養護学校」が刻まれていたそうです。校名変更後の今も漢字表記の下に**英文の学校名“BOKUTO SCHOOL FOR THE PHYSICALLY HANDICAPPED”**が添えられています。国際化時代に向けて星川校長先生の思いを入れたそうです。都立特別支援学校（当時は養護学校）の中で、**初の英文併記の校名板**と言われています。

校舎内の北棟と南棟をつなぐ各階の廊下中央には、**半円状に張り出したサンルーム**がデザインされていて、**天井部の照明もそれに合わせたUFO型**になっています。昇降口の2階部分も**半円型バルコニー**、各所の壁面には、**こて絵のレリーフ画、タイル画**、柱には、**美術品を展示する飾り棚**が設けられるなど、アートを学校教育の中心に置いた校舎設計となっています。

校章に込められた思いとは？

地域社会とともにある学校であることを願って、江東区の区花である「山茶花（さざんか）」を中心に据えています。花言葉は「慎み深い」であるといえます。教育とは本来、地道に日々の学びの積み重ねであるので、本校の校風になるようにとの願いが込められています。山茶花と椿の違いの一つは、雄しべの先端が3つに分かれていることです。この3つは、中心が子供、左右が保護者と教職員を象徴しています。保護者と教職員が子供を中心に手を携えて未来に向かって大きく成長し、実を結んでいく様相を図案化したものです。

ザ・ヒストリー 校歌の成り立ちのヒミツ！

昭和62年の開校から1年半たった時期に、歌声をとおして皆が一つになれる校歌を求める機運が高まったと判断された星川校長先生は、校歌作成委員会を設けました。委員会では、墨東生・保護者・教職員から「平易で明るいイメージ」「地域の特色」を盛り込んだ詞を公募しました。応募のあった7編をもとに、委員が補詞と作曲を行った上で、教員試聴とアンケート調査を行いながら検討を進め、平成3年3月13日に校歌を制定し、同日に校歌発表会を行ったそうです。（学校教育法の改正を受けて、平成20年4月に養護学校から特別支援学校への改称に伴い、歌詞「墨東養護」を「墨東支援」に改詞）

校歌

墨東生（共同） 作詞
校歌作成委員会 作曲

- かもめが運ぶ海の香り 小名木川
広がる青空
太陽の光をうつすさざ波 きらきら輝く
みんなの笑い声があふれる 墨東支援
- カリヨンの音がひびき渡る 願いよ広がれ
大事な仲間たち
手と手をつないで 歩んでいこう
新しい未来へ
みんなの歌声聞いている さざんかの花

本校開校の昭和62年・1987年がわかる事典！

- <できごと> 4月 分割民営化の国鉄→JR各社発足
4月 江東区の有明公園内に有明コロシアム開場
5月 俵万智「サラダ記念日」発刊（販売1位 280万部に）
7月 世界人口50億人突破（現在は81億人を突破）
7月 TDLにビッグサンダーマウンテンが開設
10月 ニューヨーク株式市場大暴落（ブラックマンデー）
11月 中曽根政権から竹下政権に
12月レーガン大統領とゴルバチョフ書記長が軍縮調印
- <この年に生まれた有名人> 井上真央、水卜麻美、長澤まさみ、木村文乃、渡辺直美、安藤美姫、絢香
- <ヒット曲：CD販売額> ①命くれなひ、②TANGO NOIR
③雪國、④STAR LIGHT、⑤Strawberry Time、⑥難破船
- <流行語> 朝シャン、地上げ屋、花キン、バブル

今年もよろしくお祈りします。 校長 田村 康二郎